みどりかいだより 95号 Web版

鳴門教育大学附属幼稚園　みどり会広報部　2020.10.30発行

ペアレンツセミナー。

◆演題「この夏こそ挑戦『イイ感じ』の親子関係」山・川組向け

2020年6月16日（YouTube配信）

講師　佐々木晃　園長先生

乳幼児の頃に体罰や虐待などを経験するとトラウマとして心に残ると言いますが、その他にも、「子どもが愛情を欲しがってる時には気づかず、親が自分の都合のいい時に愛情を注ぐ、自己満足的な（自分勝手な）子育ては、子どもがなかなか自立できない、不登校になるなど、後になって問題が起こる場合もあるそうです。では、どうやって良い親子関係を築いていけば良いのか、、

この夏は「正しいお父さん」「正しいお母さん」という立ち位置から離れ、「子どもが安心して甘えられる環境を作ってあげる」ということに注力してみましょう。甘えとわがままは違います。ここで言う甘えとは、「人の好意をあてにする気持ち」「期待して、その通りになること」です。子どもは、自分の期待した反応を、親がしてくれることで安心感を抱き、家族を信頼していきます。「家庭が楽しい」と「親を信頼している」はイコールであり、ひとつのバロメーターとなっているのです。具体的にいうと、家庭が楽しいと感じる子どもは「家族の会話が楽しく、親が自分の話を良く聞いてくれ、家族の仲がよい」と思っています。

ここに人格形成、人間関係を築く大切なポイントに繋がっています。年長のこの時期に家族、親子の関係作りをしっかりしてみましょう。

また子どもの人格形成、成長の手助けとして、まず親が「我が子の性質や特徴を知り、名トレーナー、名コーチとなる」ことです。「思考、行動、感情」これは、『子どもの人格の三要素』です。我が子の性格が、どの要素に比重があるのか、日々の観察を通して捉えてみましょう。各特性を活かし、この三要素のバランスを綺麗なトライアングルとなるよう子どもの強み、弱みを上手にコントロールする声かけをすることで、子どもに自信をつけ、達成するよう導いていきましょう。そして子どもも自分自身の傾向を知り、問題を自分で乗り越えてにいけるよう意識的に行動出来る力がつくと良いでしょう。

園長先生のユーモア、経験を交え、後半は心理学を用いわかりやすく解説いただきました。拝聴後は、いつも「良い子どもを育てるために、まず親が育つ」ということをヒシヒシと感じ勉強になります。

子どもとの時間を楽しみ、また子どもの成長の伴走者になれるようチャレンジする親たちの背中をポンと優しく後押してくださる園長先生に感謝いたします。

◆演題「星・月・空組の時代はどんなお年頃？」　星・月・空組向け

子どもの自己主張が激しくなり、保護者の悩みも多くなる3、4歳時期。園長先生に、この時期押さえておくべきポイントをご解説頂きました。

3歳児期は色々な物に対して興味関心を持ち、何でもやってみようとする年齢です。4歳になると良いことも悪いことも含め、色々な発見をします。自分が人からどんな風に見られているのかも分かり始めてくるので、恥ずかしがることもある時期です。そして5 歳になると色々なことに自信を持ってチャレンジしていきます。

これらの年齢の子どもたちに一番共通する大きな出来事が、第一次反抗期です。3歳児期以降語彙が増え、嘘や秘密も気になってきます。しかしこれは言葉や自我の発達が順調だということでもあります。子どもは何でもイヤと言って保護者を混乱させますが、ここが我慢や工夫のしどころです。

ポイントは、対話と会話に努めることです。その為には、相互理解が必要です。子どもが拒絶し続けている時は、自分が理解されていないと思ってしまっていることもあります。このイヤイヤは自己主張の練習であり、親子関係が安心できるものだからこそできるのです。まずは話を聞いてあげ、気持ちを翻訳するようにしてみてください。まだ自分の気持ちを巧く言葉にできない子どもの手助けをしてあげましょう。

対話や会話ができる親子の関係づくりの為、質問攻めにするのではなくキャッチボールのようなやり取りをすることが大事です。また、食べる、排泄する、寝る、起きるといった基本的な生活が子どもの基礎を築いていきます。ストレスや勉強の課題、物を買い与えるといったことも過度にならないようにしましょう。子どもが自分で興味を持って出来ることが大切です。そして良いことと悪いことが分かるように保護者が線引きをしてあげましょう。その際子どももプライドがあるので、あまり人前で大きく怒らないようにしましょう。

「愛されている」と子どもが分かるように、言葉に出しても良いでしょう。

「社会情動的スキル」「非認知的能力」とは勉強を下支えする力のことですが、その中にある自尊心や楽観性、自信を育てていくことが重要です。出来ることを増やし、できなくてもへこたれない心を持てるようにしましょう。これからの生活の中で子どもたちが自己好感、自己有能感、自己重要感といった肯定的な自己像を持つ為に、子どもの様子を映して返すようなポジティブなコメントをしてあげると認識しやすいでしょう。

成長過程における子どもの気になる言動も、私たち保護者が前向きに捉えられるようにご解説頂きました。

子どもたちの育ちや親子関係をより良くする為、実践しやすい具体的な解決策を挙げてご教示くださった園長先生に感謝いたします。

ペアレンツセミナーⅡ

演題「乳幼児期の遊びと学び　~ 幼児期から児童期の教育を考える ~」

2020年9月11日（本園遊戯室にて）
講師　国立大学法人鳴門教育大学
高度学校教育実践専攻（教職系）
教員養成特別コース教授
木下 光二　先生

木下先生の３人のお孫さんとの体験や観察を通して、「子どもの日常生活に目と耳を傾けてみると、大人にはない素晴らしい世界や発見が沢山見つかる」といったお話を例に、双方向性で笑いを交えながらの楽しい講演が始まりました。
幼児期に大切な事は、幼児期らしく思い切り遊び込めているかです。「幼児期を幼児期として過ごせていますか？」と私たち保護者に問われました。幼児期は、早期教育よりも今しかできない体験をし、生活や遊びの中から学びを経験させてあげる事の方が、これからの成長の支えとなります。なぜなら、人生の基礎となる時期だからです。幼児期から児童期への教育に繋がるものを、自然との関わりの中から学ぶ事が大切です。
「大人が全て準備をして、整った環境で遊ばせていませんか？」何も準備されてない状態からの遊びとの違いについて、保護者に問われました。子どもたち自ら全てを準備して遊んでいる方が、主体性があり対話的です。環境の設定の仕方次第で、育ち方が全然違ってきます。主体的な遊びの中には、『幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿』の大項目が沢山組み込まれています。「主体的に遊び込む事」が幼児期には何より大切で、幼小が連携し、学びと遊びを繋げる事が重要視されています。教科書を中心とした学習が急に始まるのではなく、生活を基盤にして学んでいく生活学習を中心とした学習から、学びを始めるのが附属小学校です。遊びの中から、やりたい事や伝えたい事が先行し、文字を楽しく学んだり、数を数えたり、夢中になって遊び活動できる事がベースとなるのが大切です。幼児期は毎日がアクティブラーニングだと言われています。
文科省が今、１番大事にしているのがこのアクティブラーニングです。それは主体的で対話的、深い学びと捉えています。幼児期らしい出来る事をたっぷりとして、一日一日を愉しんで頂きたいです。

遊び込む事、自然体験を多く経験させる事で集中力を高めます。日常生活の中で、自ら遊び方を発見・発展させていく事で思考力が芽生えます。そして、自然・植物・生き物と普段から関わっていると、生命尊重に繋がるのだと思いました。それらが遊び込みから学び込みへ、幼児期から児童期へ、スムーズに接続するための大切な時期なのだと実感致しました。大人は子どもたちが夢中になって遊んでいる環境を支援し、寄り添い、見守る関わり方が幼児期には必要だと気付かされました。幼児期を幼児期らしく遊び、自然との関わりを大切にし、人生がより豊かになるよう、私たち保護者が今できる事を学びました。そして、子どもたちは人生で1 番大事な時期を、本園で生活出来ている事が本当に幸せだと思いました。

秋季運動会

令和2 年度、秋季運動会が 10月1 1日(日)　に開催されました。
コロナ対策のため、ソーシャルディスタンスを考慮し、先生方には様々な工夫を凝らしていただき、また子どもたちもアイデアを出し合い作りあげた、今年ならではの素晴らしい運動会でした。子どもたちの力強い足踏みの行進から始まり、真剣な眼差しが見えたかけっこ、可愛らしいダンス、そして年長児の逞しいパフォーマンス。
子どもたちの勇姿は、たくさんの感動を呼び、大きな拍手が鳴り続けました。
また、保護者の皆様には、当日早朝より設営、巡回当番、後片付けまで、大変お世話になりました。
たくさんの方々のご協力に心より感謝申し上げます。

令和２年度　前期　活動報告

日頃はみどり会活動にご理解とご協力いただきありがとうございます。毎年、みどり会では様々な活動が展開されており、充実したものとなっておりますが、今年度は、感染症流行に伴い、殆どの活動を休止しております。子どもたちと触れ合う機会も減り大変残念ではありますが、子どもたちを守るため、ご理解いただけますよう、お願い申し上げます。また活動の再開の折には、掲示板にてお知らせいたしますので、皆さま是非ご参加ください。

駐車場

いつもみどり会駐車場の運営にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。新入園の星組・月組の方々も駐車場利用に慣れていただき、前期を終えることができました。会員相互に譲り合い、思いやりを持って、便利で安全に使いやすい駐車場となりますよう、引き続きよろしくお願いいたします。

広報

みどり会だより 94 号を 6 月 15 日に Web にて発行致しました。会長挨拶、園内環境紹介、先生方のご紹介、みどり会活動紹介などを掲載させていただきました。96 号の発行は、令和3 年 3 月を予定しております。今後とも親しみやすい紙面作りに取り組んでまいります。

その他の活動

みどり会理事より、教育活動の何かお役に立てればと、マント、スカート、ピアノカバー、雑巾を制作させていただきました。コロナ禍であれど、子どもたちの変わらぬ笑顔を願っております。

本園も毎朝の検温の二重チェック降園後、園内の消毒を実施してくださり、徹底したコロナ対策をしてくださっているのは、ご承知のことと存じます。
それがいかに凄いことなのか、先生方の園児たちへのお気持ちがわかるエピソードをひとつ、ご紹介させてください。
ーーーー
園児の1人が、遊んでいる最中に、着用していたマスクをいつの間にか無くしてしまいました。
帰りに、園長先生、担任の先生が「お母さん、○○ちゃんのマスクが無くなってしまい、探したんですが、見つかりませんでした。すみません。」と丁寧に謝ってくださるのです。近くにいた他の先生も、「すみません。」とお声をかけてくださいました。

母親は、今日は使い捨てマスクで、使用後は捨てるものなのに、その先生のお言葉が恐縮でなりませんでした。

翌朝、登園すると、柴田先生が、「お母さん、○○ちゃんのマスクありました！ 掃き掃除してたら倉庫の裏で見つかりました！もう汚れてたので、使い捨てマスクだったし、いいかな？ と思って、勝手に捨ててしまいました。申し訳ありません。」と。
その後、園長先生の朝のご挨拶の時も、園長先生が同じように仰ってくださりました。

この何気ない先生との会話から、マスク一枚、しかも使い捨てマスクでこんなにも先生方で連携を取られてて、そしてこの広い園内の衛生を保つために徹底してお掃除してくださってるからこそ、見つけ出すことができる先生方のご尽力に気づき驚きました。
そして先生方の園児への果てしない愛情が有り難く、目頭が熱くなりました。

ーーーー
♬先生方のコロナから必死に守ってくださろうとするお気持ちに、深く感謝いたします。